

## 国立 AI 総合研究所の早急な立ち上げが必要

### <日本の現状>

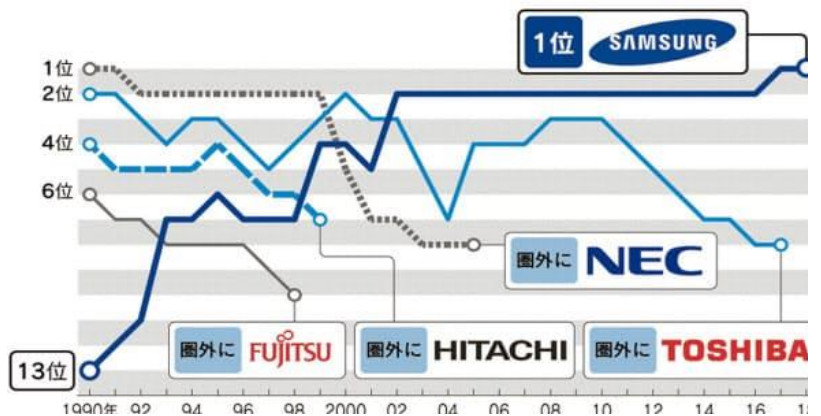
特許や論文数で分かりますが、日本のハイテク企業の凋落の要因は技術開発力で米中韓等よりも劣ることによります。端的な例が EV の蓄電池の開発競争でパナソニックさんでさえも負け始めてきたこと（テスラ社が自社開発に切り替えた）です。従来、電気部品分野は日本が強いと言われてきましたが、例えば「米アップルの新型スマートフォン「iPhone12」の部品は韓国製 27.3%、米国製 25.6%、日本製は 13.2%」となっています。

	2001年	2019年
1	米国	中国・香港
2	英国	米国
3	ドイツ	英国
4	フランス	インド
5	日本	シンガポール
6	中国・香港	ブラジル
7	ブラジル	ベトナム
8	ロシア	ロシア
9	シンガポール	ドイツ
10	インド	フランス
11	ベトナム	日本

(注)国際電気通信連合の統計を基に、

2017年の造船業の世界シェア：中韓で75%、日本はわずか7%まで落ち込んでいます。

### 日本勢の退潮で、取引相手としてのサムスの存在感が高まった (世界半導体メーカーランキング、米ガートナー調べ)



1988年は、世界の半導体シェアは日本が50.3%と圧倒的に強く、米国は36.8%、アジア諸国は3.3%でした。ところが2019年では、日本のシェアは10%にまで落ち込みました。代わって米国が50.7%。アジア諸国は25.2%にまで伸ばしてきました。今では台湾が、半導体製造においては世界の中心となっています。

また、研究開発力のバロメーターとして、大学のランキングがありますが、2011年では、東大が26位、京大が57位で、2022年では、東大が35位、京大が54位ですので、低下度はひどくはないものの、GDP(3位)に比べると、もとのレベルからして低いと言えます。(一方で、中国は大きく躍進している。)

### <日本の産業技術の凋落の背景>

#### 1. 仕事文化のマッチングの問題

欧米流の成果主義、目標管理、ISOの決めて守る、等が日本伝統の根回しやきめ細かい仕事のフォロー、そして飲みニケーションに近い形(能力

よりも、同調社会での嗜好人事的な要素が強い)での人事とマッチングをせず、情報共有やグループ力が発揮されていない(足を引っ張る構図)状況です。(有力な人事権者は、個々の目標管理の内容は見していない。)

## 2. 技術情報の流出の問題

会社としては、機密情報を外部に漏らさぬようと厳しく管理をしていますが、(日本企業は特別な待遇がないので、U人材と言われる)人材が流出することにより、技術の流出が行われている。

## 3. U人材の問題

AIで後れをとったので、各大学にAIの講座を増やすという施策がありました。が、(従来感覚なら当然至極ながら)多くの凡庸な学生が難解な講義内容で苦しみ、理解可能な一部の「U人材」の卒業生は、高給で海外メーカーに就職するような状況が多々考えられます。

### <国立AI総合研究所>

「国立AI総合研究所」とは(一般企業や大学や各種研究機関では特別待遇が難しいので、U人材が集まってこない)U人材を確保・維持するシステムです。

国が金を出し(MMT理論で国債を使う)、超高給で世界中からU人材を集めて、下記のような職場環境を整える。各種業界団体が金を出しあって、最新鋭の設備機器の導入や各種新素材を提供し、試作品づくりやユーザーの立場での評価を行い、世界圧倒的NO1の商品にし、日本の各地で生産・販売し、その儲けを、国、業界団体、地方の工場に分かち合う殖産興業の考え方です。

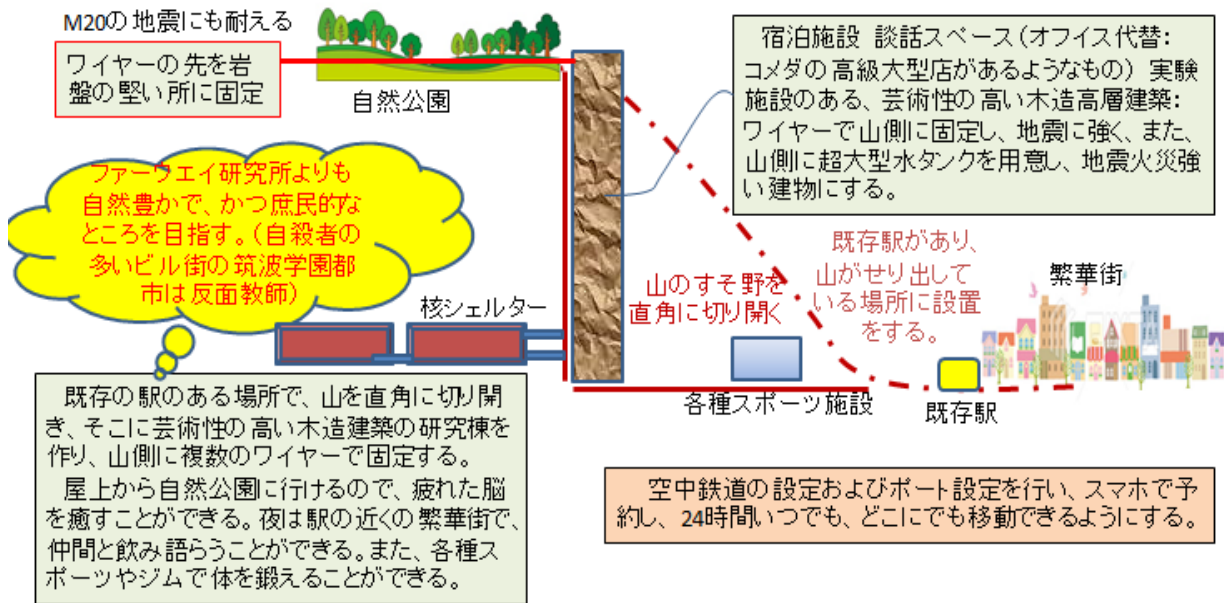
超高給で雇われたU人材は、国から基本給(1億くらい)をもらい、成果ができれば、さらに業界団体から高額ボーナスをもらうが、逆に成果を出さなければ、即辞めてもらうシステムです。(彼らはいつ辞めても堅実な生活なら一生食っていける。)

アルキメデスがお風呂でリラックスしていたときに、アイデアを思い付いた話は有名ですが、またファーウェイ研究所のような、研究所内に大河が流れ、中世の遊び心のある芸術性の高い建築物等を上回る遊び心が必要で、研究で疲れたら屋上からすぐに大自然の中に入り、スポーツを空き時間で手軽に楽しみ、そして駅近くの居酒屋やバー等でストレス発散ができるような環境の配慮が必要です。

**国立AI研究所という考え方** 日本の 技術開発力の低下を挽回するために、U人材を確保する。

日本のAI研究が立ち遅れているということで、多くの大学にAIの講座を開設しても、凡庸な学生が難解な講義内容に苦しみ、一部の理解できるU人材が、卒業すると高給で海外メーカーに行ってしまう。

世界一高給で、世界からU人材を招聘し、自然が豊かで、繁華街もある便利なところで働いていただく。  
 (国債←MMT理論) 業界団体ごとに金を出し合って、世界一の実験設備や研究材料などを提供し、評価を行い、世界圧倒的NO1の製品を地方で製造し、世界各国に販売し、国、地方、業界全体で潤う。



その環境とは、郊外の既存駅の近くで、線路の片側に繁華街があり、逆方向は住宅街が少なく山がせり出している場所が適しています。

まず、山のすそ野の部分を直角に削り、その土砂を山側に盛り土をすることで、駅に続く平地と(直角の段差をつけた)高台を作ります。駅に続く平地には各種スポーツ施設を建て、高台側は癒しの空間として、自然公園や家庭菜園ができる環境にします。また、高台側には雨水や清水を貯める超大型の水タンクを用意します。

山側の直角の壁の部分には、芸術性の高い木造高層ビルを作り、居住用途やコーヒーや、軽くお酒を飲みながら仕事ができるような、眺めの良く、広々としたオフィスや各種実験場・評価試験場(1~3階程度)を設定します。

該木造高層ビルの一部鉄骨の部分複数の太いワイヤーで、山側の岩盤の固いところに設置された地中ボルトにつなぎ、地震対策(山側にワイヤーで縛り付けるような感覚)とし、また該超大型水タンクで、自動消火を行い、地震にも火災にも強いものとなります。

「次ページ以下参考情報」

22年5月31日付の朝日新聞の第一面に「大学ファンド浮かぶ懸念」という表題で「国の支援制度 応募前向き5校」というサブタイトルですが、国の資金の支援を受ける大学にノルマがある点が難点です。そのノルマとは、

1. 国際的に優れた研究成果の創出（評価が難しい）
2. 年3%の事業成長のある研究に絞られる。
3. 経営と研究を分離したガバナンス改革等・・・

朝日新聞が、自然科学系の論文のシェアが高い46大学（3大学院大学を含む）にアンケート調査を実施したところ、申請する意向を示したのは、名古屋大、東北大学、早稲田大学の三大学で、大阪大学と東京農工大は前向きな検討中との結果で、全体的にはかんばしくない内容となっています。

本大学ファンドの目的は、どんどん低下をする日本の研究開発力の挽回にあります。U人材の層の厚さの問題であることが分かっておらず、残念です。

U人材とは、青色レーザーを開発した中村修二さんやノーベル賞を受賞した田中耕一さん等、いくつもの課題を同時にマルチ思考で解決できる人材で、GAFAYファーウェイ、サムソンなどには、多くいて、日本では多くの企業が冷遇するので（あるいは厚遇できないので）、あまりおられないと考えています。

例えば、田中耕一さんの例でいえば、ノーベル賞受賞当時のセンター長が自分の地位を脅かす優秀な人物として、田中さんを遠ざけ、主任レベルに据え置かれていました。

（ノーベル賞受賞後、田中さんがセンター長になりました。）

資金が少なく研究が進まないのではなく（もちろん資金も影響がありますが）U人材の問題ですので、国立AI研究所を設立し、厚遇によって、世界からU人材を集める施策が必要と考えています。

あるいは、世界中から、国が認定する課題をクリアした、12歳程度のU人材のたまご達を世界中から集めて（日本への渡航が無料、学費無料・宿泊無料・多少のこずかいが出るような厚遇で迎え）そして、彼らを日本に維持して、良い研究成果を出せるように環境を整えることが必要と考えています。

●スポーツ界で、世界と伍していけるような（あるいはメダルが取れる選手になるためには）英才教育は必要で、英才教育を受けた人達のなかから偶然才能が開花した人たちに栄光がもたらされると考えておりますが、研究開発で成果をあげるのは、それなりの教育や才能があった上で、大きな成果をあげるためには、偶然性（運）も必要です。

国立AI総合研究所を設立し、U人材の確保・維持が必要になっています。